

通し番号	4 1 5 2
------	---------

分類番号	17-34-13-02
------	-------------

(成果情報名) リンゴの「ふじ」着色系統に適した優良わい性台木「JM7」
[要約] リンゴの台木品種「JM7」は、従来のわい性台木品種「M9」と比較して、「ふじ」の着色系統を穂品種としたときに、樹体の生育に大きな差はないが、初期収量に優れ、糖度が有意に高いことから、神奈川県のリンゴわい化栽培における「ふじ」のわい性台木品種として有望である。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター果樹花き研究部 連絡先0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

神奈川のリンゴわい化栽培における「ふじ」に適した優良台木品種を選定するため、近年発表された（独）果樹研究所育成のJM台木のうち、主要わい性台木「M9」に対して、わい性程度が同等とされる「JM7」が「ふじ」優良着色系統の生育に与える影響を調べる。

#### [成果の内容・特徴]

1 「ふじ」の着色系統である「ハイランドふじ」は、「JM7」を台木とした場合に、樹体の大きさ（樹高、樹幅、幹周）は、従来のわい性台木「M9」とほとんど差がなく、わい化の程度はほぼ同等である（表1）ため、栽培管理は、従来の「M9」台と同様でよい。

2 2002年から2005年までの累積収量は、「JM7」台が「M9」台よりも有意に高いことから、初期収量に優れることが分かった（図1）。また、果実品質のうち屈折計示度（Brix%）は「JM7」が有意に優れており、また着色はチャート値4.0を示し、「M9」台と同等の着色を示していた（表1）ことから、神奈川県における「ふじ」の着色系統の台木品種として有望であると考えられた。

#### [成果の活用面・留意点]

1 基本的に、「ハイランドふじ」の栽培管理は「ふじ」と同じであり、「JM7」を台木とした場合についても、従来のわい化栽培と同様でよい。

2 2005年度については、リンゴの着花数が全般的に少なかったことと、輪紋病の発生により、着果量が少なかった。

[具体的データ]

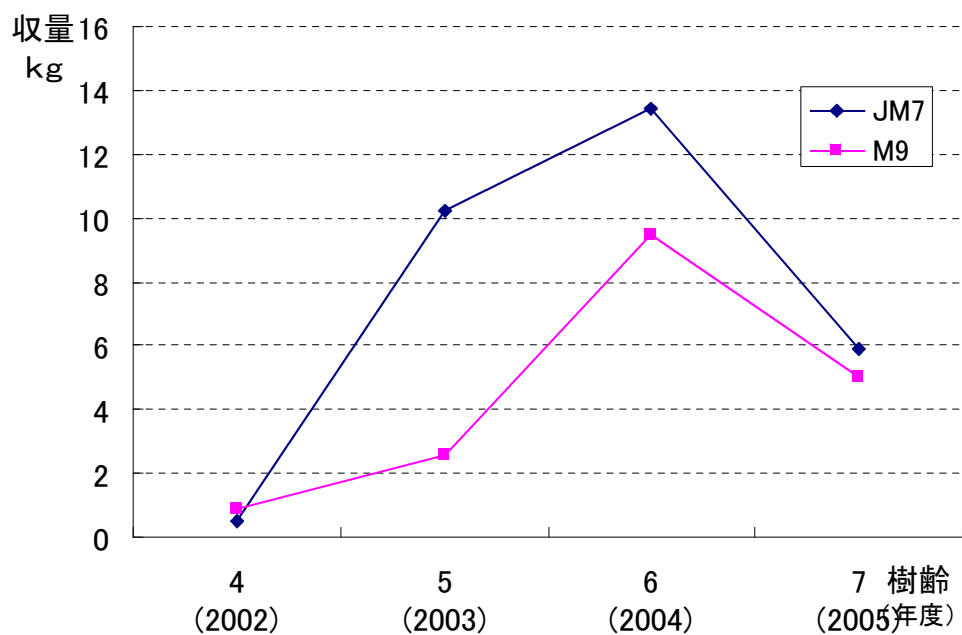


図1 「ハイランドふじ」の初期収量に及ぼす台木品種の影響

表1 「ハイランドふじ」の品質に及ぼす台木品種の影響 (2002~2005)

台木	一果重 g	硬度 <sup>z</sup> lb	屈折計示度 Brix%	リンゴ酸 g/100ml	果皮色 (C.C.)	地色 <sup>z</sup> (C.C.)
JM7	310.0	8.8	14.3	0.49	4.0	3.5
M9	289.2	8.5	13.2	0.46	3.6	3.1
有意性	n.s.	**	**	n.s.	n.s.	n.s.

<sup>z</sup> 2005年度のデータ

[資料名] 平成17年度 試験研究成績書 (果樹)

[研究課題名] 神奈川に適したリンゴおい性台木の探索

[研究期間] 平成12年度~平成17年度

[研究者担当名] 関 達哉・北尾一郎